

## 御前山ビオトープ周辺の植物等

山地の林下などに生える多年草です。春早く花茎（花をつける茎）の先に上向きに咲く花を一つつけます。花びらのように見えるのはがく片で、10枚前後あります。花びらはありません。アズマイチゲは林の木々がまだ葉を広げないうちに、太陽の光を十分に浴びて花を開きます。そして木々が芽吹いて葉を広げ、光が十分に届かなくなるころには、地上部は枯れて、次の春を待ちます。



（キンポウゲ科 イチリンソウ属）  
（写真・データ提供 御前山ダム環境センター）

# みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編

ホストタウン交流計画の一環として、パラオ共和国から来市している2人の研修生が本市とパラオとのさらなる友好交流事業を企画立案する素材として、本県の特産品である「干し芋」ができるまでの作業を体験しました。

この体験に協力してくださったのは、元地域おこし協力隊の間瀬邦生さん。間瀬さんは、4年前に本市に移住し、3年間農業体験民泊や干し芋加工事業等に取り組み、現在も那賀地区に居住して地元で根差した農業を行っています。

研修生は、昨年うちに「干し芋」の原料となるサツマイモ（品種：紅はるか）を何百本も掘り出し、大きさや形などの選別のほか、機械で洗浄する作業をしました。その後、サツマイモを盛金地区の金山跡の横穴洞窟内で約3か月間寝かせて、じっくりと熟成させました。熟成期間を終えたサツマイモを洞窟から取り出し、蒸し器でふかし、1本1本手作業で

の皮むきに挑戦。皮をむいた後は、サツマイモをスライサーで薄く切り1枚1枚丁寧にハウス内の干しカゴに並べました。

シェナさんは、「これをきっかけに私の好きな日本の食べ物が干し芋になった。パラオではタロイモをよく食べるので、タロイモで干し芋ができるかどうか試してみたい。」と話していました。ケネリーさんは、「外よりも洞窟の中はととても暖かく、気温や湿度が保たれているせいか、熟成された干し芋はととてもおいしい。ペリリュー島にも横穴洞窟があるが、洞窟がサツマイモの貯蔵庫として活用されていることにととても驚いた。」と感想を述べていました。



▲自然の貯蔵庫横穴洞窟（内部気温約10℃）



▲並べた干し芋と笑顔の研修生

### 常陸大宮市の人口

（3月1日現在・推定常住者）

総人口 39,635人 世帯数 16,041世帯  
（男 19,565人 女 20,070人）



### 広報 常陸大宮 3月 第186号

発行日 令和2年3月25日

発行/常陸大宮市 編集/秘書広聴課

〒319-2292 茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/

